

新たな感染症とともに



2月19日に5回目の検討会議を開催しました。

会議では、「医療と教育が連携し子どもたちの日常を取り戻すプロジェクト」の1年を振り返りながら、今、子どもたちが置かれている状況を再認識し、更なる一步を踏み出す決意を新たにしました。その内容の一部を報告します。

検討会議の願い

門出をサポートします



1. 卒業式・入学式開催指針を発行しました

- ・ 「入退場や卒業証書授与等、飛沫が飛ばない場面」「周囲の人と十分な距離がとれている場面」では、子どもたちにマスクの着用を求めません。換気や距離を重視した対策を行っています。晴れやかな表情の子どもたちを、温かく見守ってください。
- ・ 体調がすぐれない場合は無理をせず参加を見合わせてください。参加される保護者の皆様は「マスクの着用」をお願いいたします。私語を控え、手指衛生に努めてください。
- ・ 学校の規模、会場の広さ等も考慮し、各校それぞれに工夫して式を開催します。

誹謗中傷から守ります

2. 感染情報は、必要な人に必要な内容を伝えています

子どもたちは感染しても多くが無症状で、身体の心配はほぼありません。

一方で、未知の不安から誹謗中傷に走ってしまう場面が全国で散見され、子どもたちが心にダメージを負うことがあります。



たとえ感染しても、登校できる日をみんなが心待ちにできる学校・社会であってほしいです。「感染ゼロ」を目指すのではなく、「誹謗中傷ゼロ」を目指していきたいと思っています。

できる限りの「日常」を！

3. 「仕方がない」と我慢させるのではなくできる方法を模索していきます

感染対策を講じていても、かかりにくいとされる子どもたちであっても、クラスターは起きています。

だからといって、ゼロリスクを求めることは、子どもたちの心に蓋をし、健全な発育を阻害する危険性が高くなります（詳しくは、裏面のアンケート調査結果を参照してください）。

学校行事等も感染を恐れて一律に中止するのではなく、開催時期の見直しや内容の精選を行い、最新の医学的知見、地域の感染状況等を考慮しながら、「どうしたら実施できるのか」を模索し、かけがえのない「今」を、大切にしていきます。



コロナ禍の子どもの心と体の変化 ～富山市～

健康診断やアンケート調査の結果から

例年に比べて…

- ・ 全学年で肥満が増加
- ・ 中学生で痩せすぎが増加
- ・ 給食を残す量が倍増
- ・ 1日3時間以上のメディア利用が著増
- ・ 学校が楽しくない、イライラする、ぐっすり眠れないなどが増加

コロナ禍における社会的混乱は、子どもたちの心に大きな影を落とし、**全国では、うつ傾向や摂食障害の相談で受診する子どもたちが急増**しています。



本市でも、この1年で、子どもの心や体に問題が生じていると感じるデータが出始めています。左の図は、その一部を示したものです。

詳細な結果は、リーフレットや市のホームページに掲載し、報告する予定です。

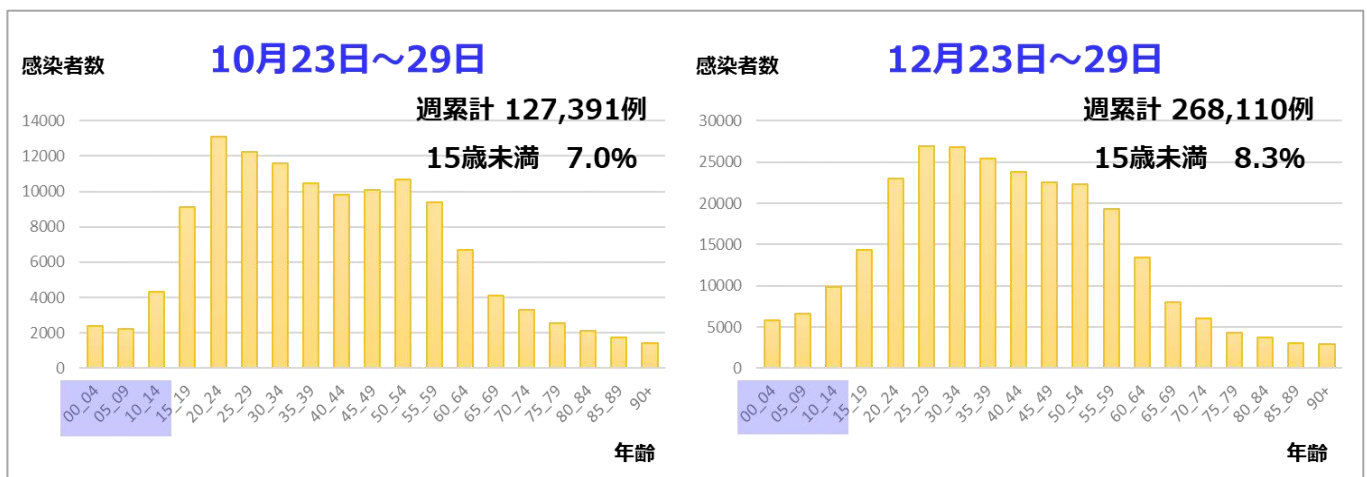
変異ウイルスと子どものコロナ

最近、国内でも変異株のウイルスによる感染事例が報告されています。

イギリスの変異株ウイルスの感染力は、従来のウイルスの1.7倍ともいわれ、一部では「子ども、大人と同様に感染しやすい可能性がある」との報道もなされています。

では、本当に、変異株ウイルスは子どもに感染しやすいのでしょうか？

下の図は、ウイルスが変異する前後で、イギリスの15歳未満の子どもたちの感染割合がどのように変化したのかを見るため、検討会議が作成したものです。このグラフから分かるように、感染者数が増えていても、**子どもの感染割合は大きく変化していません。**



その後、1月末には欧州疾病対策センターが、「**子どもたちは新たな変異ウイルスに対して影響を受けにくいようだ**」と見解を発表しましたが、国内の報道でその事実が伝えられることは、ほぼありません。不確定な情報に惑わされず、基本的な感染対策を守っていくことが大切です。

検討会議では、皆様に正しい情報を提供することで不安の払しょくに努めます。

このリーフレットの内容については、必要に応じて改定することもあります。
【事務局】富山市教育委員会 学校保健課(TEL 443-2136)